

ウッドバッジの起源



Gilwell Park は 1919 年にボーイスカウト運動における正式なリーダートレーニングの場所として購入され訓練が開始されました。そのときB・パウエルは必要性を感じていました。そして、トレーニングコースを完修した証の、何らかの識別したものを指導者に与えるべきと感じました。当初、彼はリーダートレーニングを終了した指導者が装飾的な房(ビーズ)を彼らのボーイスカウトの帽子につけることを考えましたが、もうひとつの方法として、コートボタン穴に付けられる 2 つの小さなビーズも考え、二者択一で始まり、それはウッドバッジと称されました。

しばらくして、帽子にビーズをつけることはやめられました、そして、その代わりに、彼らは首(今日まで続く伝統)の回りに革の紐またはブーツの靴紐でビーズが吊されました。最初のウッドバッジは Dinizulu という名のズールー族のチーフが所有していたネックレスにあったビーズから作られました。そして、それを BP は 1888 年にズールーランドに滞在していたとき発見しました。Dinizulu は国家的行事のときには、この南アフリカ原産の黄色アカシアから作られたビーズの首飾り(長さ12フィートで約 1000 個のビーズから成り立つ)を着けていました。(ネックレスについては24フィート 2000 個であったとの意見もあるが、本文においては英国連盟公文資料の数値に従った。)

黄色アカシアの木は柔らかい中心髓を持っています。そして、それは生皮紐の端から端まで装着されることが容易にでき、1,000 のビーズが配置されることが出来ます。小さなビーズから 4 インチのものなどサイズはバラバラでした。このネックレスは王族と神聖な戦士にのみ着けることが許されました。



Dinizulu オリジナル・ネックレス・ビーズの拡大写真

BP が Gilwell トレーニングコースを完修した指導者に与えるいくつもの品物を探していたとき、彼は Dinizulu が着けていたネックレスと革紐がマフェキングで初老のアフリカ人によって神聖な戦士に与えられるのを覚えていました。彼はより小さな 2 つのビーズを、革紐で首から吊るすことを教えてもらい、それをウッドバッジと呼ぶこととしました。

最初の頃、指導者に配布されたビーズは Dinizulu オリジナルのネックレスのビーズでした、しかし、ビーズはすぐに不足することが懸念され、ビーズは、Gilwell での実習を完修したとき 1 個の Dinizulu のオリジナルビーズ(黄色アカシアビーズ)を授与し、その後一定期間の奉仕を実践後に 2 個目を“シデ”(四手:カバノキ科)または“ブナ”からそれぞれが刻んで作るようになりました。

最後には、Dinizulu から貰ったオリジナルビーズは無くなり、ブナの木から作ったビーズが標準になって、何年間もの間 Gilwell スタッフによって閑時作業により作られるようになりました。

原本には B-P によるこれらのスケッチは Wood Badge デザインがどう発展したかを示します。

当初、考えられたスカウトハットの縁のコート Worn のボタン穴では、損傷及び摩耗に耐えられないとおもうようになりました。

BP は、米国からの遠征隊の役員が幅広いつば付きのブラックパンサーのステットソン帽子をかぶっているのを見た後に、第一次世界大戦の間、帽子にビーズをつけることについてのアイデアを持っていました(後に B-P ハットとなりましたが、その頃はステットソン帽子と呼ばれていました:『プレーズのボスより』)、帽子には、ひもの端に2つのドングリが着いており、それは帽子が強い風で吹き飛ばさないように工夫されていました。

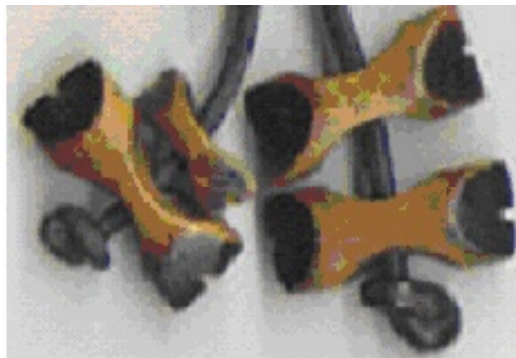
その帽子はボーイスカウト指導者が野外のみ着用したので、当初、2つのビーズを帽子の上に同様に付けておくことを考えたが、彼は再考し、その代わりに、常時身につけることが出来るよう、彼は指導者の首に出来るネックレスがいいのではという考えに達した。

ビーズのバリエーションは、すぐに確立できました。2つのビーズネックレスは初期トレーニング完修指導者、アシスタントリーダートレーナー(以前、アシスタントキャンプチーフスと呼ばれる)には3つのビーズ、リーダートレーナー(以前、代理キャンプチーフスと呼ばれる)には4つのビーズでした。

近年 Trainer Training のパターンの改訂で、3つと4つのビーズネックレスの授与は無くなりました。

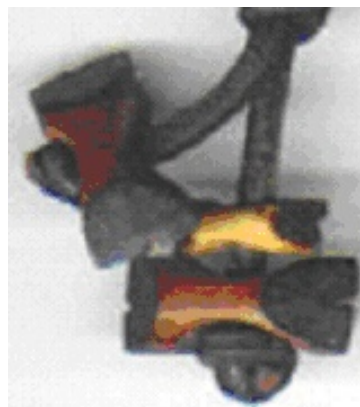
(現在、英国においては、キャンプチーフ以外すべて2ビーズのみ着用であり、海外においてはまだ3、4ビーズ製の国々がたくさん現存している。)

リーダー・トレーナー・ウッドバッジ。



小さな第4のビーズが初期に配られた Dinizulu のネックレス(ビーズ)です

副リーダー・トレーナー・ウッドバッジ。



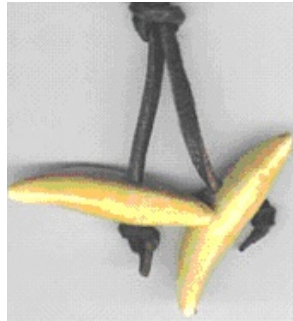
小さな第3のビーズは Dinizulu ネックレス(ビーズ)です

Akera Badge

初期の短い期間、ウルフカブのトレーニング(日本で云う月の輪)には、別のシステムがありました。1922年から1925年まで、ウルフカブトレーニング完修者には“狼の牙”または班長章が与えられました。そして、“狼の牙”は革紐にビーズの代わりに一つの牙を吊るしました。ウルフカブ・トレーナー(また、班長指導者として知られている)は、2つの牙を着用しました。これらの牙は骨歯牙または木の複製でしたが、現在そのものはわずかに現存するのみとなっています。

ウルフカブ・トレーナー・ウッドバッジ(1922-1923)。

このバッジは、委員会が1925年11月13日に制定しましたが短い間にとどまりました。着用が、リーダートレーニングのためウッドバッジに飾りを付け加えました。『特徴的なマークによる…』『リーダーのセクションを意味するために…』このマークは小さな色のついたそろばん型ビーズでした。そして、革のブーツの靴紐の上の結び目より上にすぐに配置しました。ビーズはカブ部門は黄色、ボーイ部門は緑色、ローバー部門は赤色と色分けされていました。しかし、これは長く続かなくて、1927年10月14日に委員会の決定によって段階的に排除されました。また、これらのビーズを着用した人はほとんど現存していません。



Gilwell Parkにおいてトレーニング形態が確立された後、諸外国においてもウッドバッジトレーニングが開始されました。コースの開設責任者は Gilwell Deputy Camp Chief と称されました。そして、それぞれの国で Gilwell Park 代理人と称しました。おそらくB・パウエルによって確立される伝統に従って、その人は、5ビーズを着ることができました。1920年代と1930年代にこれらの5ビーズの代理人を多く選定したが、だれがそれらを着ていたか記録に残っていません。

B・パウエル自身は、6つのビーズをつけました。しかし、BPはパーシーエヴェレット卿にも一組の6つのビーズを進呈しました。

パーシー卿は1907年のブラウンシー島の実践的なキャンプ以来のBPの後援者でした、そして、彼はトレーニング・コミッショナーであり、実際にはチーフスカウト代理を務めました。彼がパーシー卿に6つのビーズネックレスを授けたのは運動の累計赤字の承認を願ったことにもよるものと思われます。

1949年に、パーシー卿は、キャンプチーフ(すなわちリーダートレーニングに対して責任がある Gilwell スタッフの人)の職の象徴として着用できるよう、彼の6ビーズネックレスを Gilwell Park に返還しました。その後ジョンサーマン(キャンプチーフ)は1969年の彼の引退まで6ビーズを着用し、次にブライアン・ドッジソン(リーダートレーニングのディレクター)に引き継がれ、デリク・トウイン相談役コミッショナー(プログラムとトレーニング担当)と引き継がれ、現在はステファン・ペック(プログラムと開発のディレクター)が6ビーズを着用しています。

指導者として認識するビーズは、旧ズルー族の伝統です。我々はチャールズ・ローデン・マクレーン(別名ジョンロス)の物語でそれらを読むことが出来ます。そして、その人は1825年にズルーランド海岸沖で難破に遭いました。彼は、偉大なズルー族の王シャカに会った初の白人のうちの1人でした。First Fruits Festivalと云う本の文中に、彼は書いています:『彼らの身体にはビーズと真鍮製装飾で着飾ることを。』

これらの装飾で最も不可解な部分は、木の数列の小さな部分から成り立っていて、つなぎ合わせられれば、ネックレスとブレスレットになり私たちの疑問に対して、我々はズールー族の戦士がこれらの明らかに役に立つとは思われない物に偉大な価値をつけた、そして、その装飾がシャカによって与えられる最大の功労勲章であったことが解りました。

多くのビーズの列は英雄的な行為の際立った戦績の勲功でした、そして、着用者はシャカの自身の手から彼らに与えられました。後でマクレーンが会ったとき、Dingane(シャカの異父兄弟)はパーティにおいて王と同じ様ビーズで着飾ったがこのビーズはとても大きなものでした。

Dinizulu のビーズがマクレーンの見たシャカが与えたビーズの飾りと同じものであることは、ほぼ疑いがありません、そして、BP がこれらのビーズをトレーニングの完修の記念に与えたことは全く驚異的なことです。BP はシャカがビーズを英雄的行為の勲功で与えたことを知りませんでした。

今日、何千人ものズールー族の少年がスカウトにいます。1987 総理大臣マンガスツブテレジの

KwaZulu は、大きなボーイスカウト大会の賓客でした。マンガスツブテレジの母(Magogo 王女)は、Dinizulu の娘でした。この大会で、南アフリカのボーイスカウトチーフは、自身の首から4つのウッドバッジビーズをはずし、本来の相続人たるマンガスツブテレジに尊敬の念を込め、ビーズの返還を行いました。



リーダーウッドバッジ(1925)丸い黄色のビーズが Cub Leader Wood Badge を完了した

リーダーに付与されました。

GILWELL の卒業証書コース

Gilwell で使われるトレーニングの計画は、1914～1918 年の戦争の初期に本部 Gazette で発表される BP によって、一連の記事から進化しました。

これらは、Aids to Scoutmastership のタイトルで 1919 年に単行本で出版されました。トレーニングのフレームワークは、以下のメモで BP によって書き留められました。

ウッド Badge のための卒業証書コース

ボーイスカウト協会のすべての正当化された役員に一般公開してください。

1. 理論的な:

表題は Aids to Scoutmastership とする。少年のためのスカウト活動と規則で年齢に従う機構と同じくらい定められるボーイスカウトトレーニングの目的と方法。トレーニングの4つの主題: 精神、健康と性的知識の自然の法則及び国家の必要性とトレーニングの可能性。事前に希望した、4 のコースは本部 Gazette からの通信または、Gilwell Park での週末の立会いによって研究研鑽されます。これは、冬のコースを形成していきます。

2. 実地的な:

主題の 4 つのグループで:

1. 隊・班とキャンプ術
2. フィールドワークとパイオニアリング
3. 山林での生活法とボーイスカウトゲーム
4. サイン術と探検

トレーニングは 4 本とも週末コースまたは野営の 8 日間どちらも Gilwell Park で体験することが出来ます。

3. 管理:

研修後または研修中に実際に隊の運営及び管理を 18 ヶ月以上経験すること。

賞: ボタンホールに通す 1 つのビーズ ? パート1とパート2を超えることが条件。

さらにパート3を超えれば帽子ストリングと Diploma の上にひとつのビーズ。

キャンプチーフになることの特別な資格を終了すれば、さらに帽子ストリングと Diploma の上の 2 つのビーズしかし、二重のビーズは Gilwell Park で与えられるだけでした。

DINIZULU - ズールー族のチーフ



Dinizulu 1863-1864

1879 年初めのズールー族との戦争で、ズールーランドの勢力は、13の行政区(13のズールー族のエリア)に分割されました。Dinizulu(前ズールー族の Cetywayo チーフの息子)は、13の族長のうちの 1 人でした。

多くのズールー族は交戦的な種族で、すぐに他のエリアに侵攻していて、村を燃やしたり、彼らの牛の群れを襲撃したりしました。Dinizulu は地元のボーア人(オランダ領属)軍隊の援助を要請して、およそ800人の騎馬ボーア人部隊と共同戦線を組んでいました。

この援助で、Dinizulu は手早く近隣の種族を征服することが出来ました。そして、彼らに援助のお返しに、Dinizulu はボーア人に土地を与える約束しました。しかし、約束のため多くの部下から土地を取り上げることに直面して、彼は約束を破り、援助を英国政府から受けることにしました。

英国政府は、前の条約に基づきボーア人から領土の一部を取上げることに成功しました。ズールーランドで更なるボーア人侵略を防ぐために、英国政府はズールーランドに軍隊を駐留させました。ボーア人による侵攻は止まりましたが、英国政府によるズールーランドの併合は、Dinizulu の計画にありませんでした。11888年初頭に、Dinizulu はおよそ 4,000 人の戦士を集めて、急に英国政府に叛旗を翻しました。

深刻な状況をむかえ、1888年6月には2000人のイギリス兵がズールー族の反乱を鎮圧するためにケープタウンから送り込まれました。B・パウエルはこの援軍のメンバーでした、そして、部隊指揮官がBPにDinizuluの所在に関する情報を得るために情報部を設立するように命じたとき、BPはズールー族によるスパイの小さなグループを組織して、Dinizuluを中心としたズールー族の動きを監視することになりました。

Dinizulu と彼の軍隊は Ceza の要塞に隠れました。そこは、いくつかの厚く樹木が茂った峡谷を通り壊れた岩、玉石と洞穴乱雑な道を進みジャングルを抜けた山頂にありました。

BP は、兵士、騎馬軍隊と友好的ズールー族の斥候の一軍で Ceza の茂みへ移動しました。BP と彼の軍隊が頂上に着いたとき、Dinizulu と彼の戦士はその要塞を放棄していました。しかし、多数の小さな砦と小屋は見つかりました。これらの小屋(そのサイズとデザインのため、それは Dinizulu のそれであるように見えました)のうちの1つで、BP はいくつかの武器と木のビーズの長い列の装飾を発見しました。

数日後になって、Dinizulu は自首してきました。アフリカの西海岸から1100マイル離れたセントヘレナ島に、10年の投獄を宣告され、島に渡りました。彼の滞在(本当は投獄ではなく亡命との説もあり)の間に、彼が西洋のスタイルや衣類を着るようになって、キリスト教を認めて、クワイア教会で歌を歌ったと報告されています。



Dinizulu & sons 1908

1898年にはDinizuluがアフリカに戻るのを許されたが、他の反乱に関与していて、殺人、反逆罪と他の罪に対する以降の裁判の後、1908年に4年の投獄が宣言されたが、2年後に解放されて、1913年にトランスバールで死去しました。

BPがネックレスを得た方法に関しては諸説あります？DinizuluがBPにネックレスを与えたもしくはBPが放置されたものを持ち帰ったなどです。

ボーイスカウト連盟に保存された原稿には、BP の要請により記述された下記の文書が収納されています

チーフスカウトが語る DENIZULU 私がネックレスを得た方法

文書は、Dinizulu チーフのネックレスの物語を認めるものとして、1925年に BP によって口述され。元のメモはボーイスカウト連盟の文書保管所の保存され、B・パウエルのレターヘッドが押されている便箋でタイプしてあり、パックスヒル、ベントリー、ハンプシャーにおいて作成されました。

『1879年に、Wolseley 卿の率いる英国軍は Getchwayo が統治するズルー族の王国を解体しました。それはたびたびボア人と英国の領域に脅威を与えていました、ズルーランドを8つの部族(別々のチーフの組織)に分けました。

これら部族のうちの 1 人に、Dinizulu (Getchwayo の息子)がいました。

『1888年に、Dinizulu は英国人に対して反乱を起こしました。しかし我々にも2つの部族が同調しました英国軍司令官ヘンリー・スミス卿は Dinizulu に対して対抗措置を行い、私は軍長官秘書とともに諜報活動に参加しました。

『ちょうどトランスバールの辺境に、Dinizulu は、Ceza 要塞と呼ぶ拠点に避難しました。私は2～3の斥候とともにその要塞を偵察しました。そして、我々の軍隊は3方向から要塞がわかる位置に配置しました。夜明けを待って攻撃を開始する直前に、同行の斥候が、敵がそれ(大部分の食物と武器、装飾品)を残して、逃走を始めたことを発見し、境界を越えてトランスバールに逃げたことが判りました。我々はそれ以上、彼らの後を追うことができませんでした。

『Dinizulu が住んでいたと思われる小屋で、私が特に木のビーズのネックレスを見つけました。私は彼の写真を前もって所持しており、彼の首まわりに、このネックレスをつけていたことを2～3ヶ月前に写された写真で知っていました。又、彼は若者特有の資質とエネルギッシュな行動力を兼ね備えていました。』しかし

彼は、最後には降伏して、人質をとられ、彼の行状と態度に改善がみられ、人質は彼の部族に返されました。後に、彼は再び脱出して、英国とズルーランドの関わりに再び関与することになりました

革紐

ウッドバッジの他の重要な部分に、ビーズは別として、革紐自体があります。ものが少ない時代、B・パウエルは当初1899/2000年のマフェキングの攻囲で与えられました。初老の男性は BP の不景気な外観に関して尋ねました。それから、男は首に着ていた革のひもをとって、BP の手にそれを置きました。『これを着てください』と、男性が言いました。『母は、縁起をかついで私にそれを与えました。現在、それはあなたに運をもたらします。』BP は受け取りました。以降アフリカでの彼の軍事キャリアから得た2つの記念品(マフェキングの老人からの革紐そして、Dinizulu のネックレスのビーズ)が、BP 構想のウッドバッジとして世界中に知られることとなりました。

GILWELL スカーフ

スコットランド人の実業家であり地区コミッショナーであった William de Bois Maclaren(マクラレン)はスカウト指導者のためのトレーニングセンターとして又、スカウトのためのキャンプ場として、ロンドン・ダンバートン州の Gilwell Park, Epping Forest の端の 55 エーカーの土地を買うために、1919年に7000ポンドを払いました。

この場所は14年間放置され、実質的に遺棄されていたので、彼も建物(ホワイトハウス)等の建設に後に更に3000ポンドを拠出しました。Gilwell Park が1919年7月26日に公式にオープンしたとき、マクラレン夫人はリボンカットのためにホワイトハウスの入り口に掛けられたボーイスカウト色(緑で黄色の)のリボンをカットしました。BP は、それからボーイスカウト運動にマクラレンが多大な寄付を行ったことに対しシルバーウルフを贈りました。

マクラレンのことはあまり知られていません。彼は Climbs と Changes (Cheery から Chuckles) を含むいくつかの本を書いているほか、戦争 (第一次世界大戦の経験に基づく詩の本) も書いています。彼は、1921年に死去いたしました。彼の名誉において、Gilwell のスタッフは、マクラレンの家紋のタータンでできているスカーフを着用しました。しかし出費を減らすために、暖かい赤い裏 (感覚の暖かさを意味するために) によるハト灰色布 (謙遜の色) のスカーフに代わり、スカーフ先端にマクラレンタータンの部分を付けました。1924年には、スカーフの使用が、ウッドバッジ所持者だけに制限されました。今日、スカーフはハト灰色布からアースカラーのベージュに代わりましたが正確な理由と時期は解っていません。

THE GILWELL WOGGLE

woggle は、ビル・シャンキリー (Gilwell スタッフのメンバー) によって、1920年代初期につくられました。彼の、公式 woggle に採用されたものは2ストライド・トルコ流ターバン状の飾り結びスライドでした。1943年に、ジョンサーマン (キャンプチーフ) はリーダートレーニングプログラムの各時期の完了を認める証として何かを望みました。それからベーシックトレーニングの完成に関してウッドバッジの一部として取り入れることが理論的に迎合できることを知りました。1943年から1989年間に Advanced Training が完成、Basic Training も完成、Gilwell スカーフ、および Wood Badge ビーズの上に Gilwell woggle を与えるルールが確立しました。このルールは今日まで続いています。

